

## 研究報告

## 地域住民主体の観光まちづくりにおける着地型旅行商品に関する一考察

## ～近江八幡市安土町地域自治区での取組を事例として～

梶 雅弘（滋賀県立大学大学院 環境科学研究科 環境計画学専攻）

鵜飼 修（滋賀県立大学 全学共通教育推進機構 准教授）

観光まちづくりでは、しばしば、企画旅行商品の流通促進が課題となるが、旅行会社が主催する募集型企画旅行には、不特定多数に対して参加募集をかける企画旅行商品と、オーガナイザーを介して参加募集をかける企画旅行商品に大別される。後者では、アウトセールス担当者が、自らの顧客に対して売り込む商品が多く、この顧客はオーガナイザーとして集客に貢献する場合が多く、前者の特性に加えて営業担当者が集客力のあるオーガナイザーに対し、地域の魅力についての的確に説明できる商品リテラシーの高さが求められる。

私は、こうした企画旅行商品の特性に着目し、着地の地域側でのより効果的な商品造成、仕入れ・販売体制づくりについての仮説を立て実証的研究を進めたところ、主として日帰り圏内からの集客に関する効果的な手法を見出すことができた。このことは、今後、観光まちづくりにおける旅行会社と地域との連携・協働において、全国各地で想定されているさまざまな課題の解決に活用できると考える。 以上